

約9千万円の赤字が見込まれるため、みなさんのご協力をお願いします

2月21日に開催された第94回組合会において、平成23年度の予算が可決・承認されましたので、お知らせいたします。

保険給付費と納付金だけで 保険料収入をほぼ占める

増え続ける医療費、高齢者医療制度に対する納付金の増大、経済不況による標準報酬の低下といったさまざまな要因によって、健保組合を取り巻く環境は厳しさを増しています。これに対応するため、全国の多くの健保組合では、平成23年度の予算編成にあたり、保険料率の大幅な引き上げが行われています。

当健保組合の23年度予算は、健康保険料率千分の87（事業主 千分の48、被保険者 千分の39）を据え置き、標準報酬月額31万2000円、被保険者数6300人などの数値をもとに予算を組み、総額で27億5493万円を計上しました。

収入では、財源の要である保険料収入を25億6926万円を計上し、財源の不足分は、繰越金1億1150万円をあて、収支の均衡をはかることとしました。

支出では、みなさんの医療費や各種給付金としての保険給付費を前年度より4211万円減の13億9855万円を計上しました。これは保険料収入の約54%にあたります。前期高齢者納付金や後期高齢者支援金など、高齢者の医療費にあてられる納付金については、前年度より9391万円減の10億7316万円となり、保険料収入の約42%となっています。

このほか、健保組合のメイン事業の一つである保健事業費は、健診事業や保養所利用補助など、みなさんの健康づくりをより充実させるため、前年度より206万円増の1億3974万円を計上

しました。

これらの結果、実質的な収支では、経常収入25億7584万円、経常支出26億6646万円、9062万円の赤字予算となりました。

厳しい状況でも みなさんの健康づくりを サポートします

過重な納付金負担、増大し続ける医療費などによって、健保組合の財政は逼迫の度合いをさらに深めています。こうした状況ではありますが、当健保組合では、円滑な組合運営に力を注ぐとともに、みなさんとご家族の健康を守ることを最大の使命として、今年度もみなさんのニーズに合ったさまざまな事業を展開してまいります。

みなさんには、健診を積極的に受診・活用していただき、病気の予防・改善に努めていただくほか、契約保養所の利用で心身のリフレッシュをはかっていただくなど、医療費の節減にご協力をいただくと幸いです。みなさんのご理解をお願いいたします。

平成23年度予算がまとまりました

平成23年度収支予算概要

健康保険

■収入

科 目	予算額(千円)
みなさんと事業主から納められる保険料	2,569,259
健保組合が互いに出し合って助け合うお金（調整保険料）	37,757
繰越金	111,498
その他	36,411
合 計	2,754,925

■支出

科 目	予算額(千円)
病気やけがやお産をしたときに健保組合が負担する保険給付費	1,398,552
高齢者の医療に使われる納付金	1,073,155
健康づくりに使われるお金	139,736
健保組合が互いに助け合うための拠出金	37,757
その他	55,725
いざというときのための予備費	50,000
合 計	2,754,925

介護保険

■収入

科 目	予算額(千円)
みなさん※と事業主から納められる介護保険料	227,620
繰越金等	6,586
合 計	234,206

■支出

科 目	予算額(千円)
国に納める介護納付金	230,885
積立金等	3,321
合 計	234,206

※ 介護保険第2号被保険者たる被保険者等

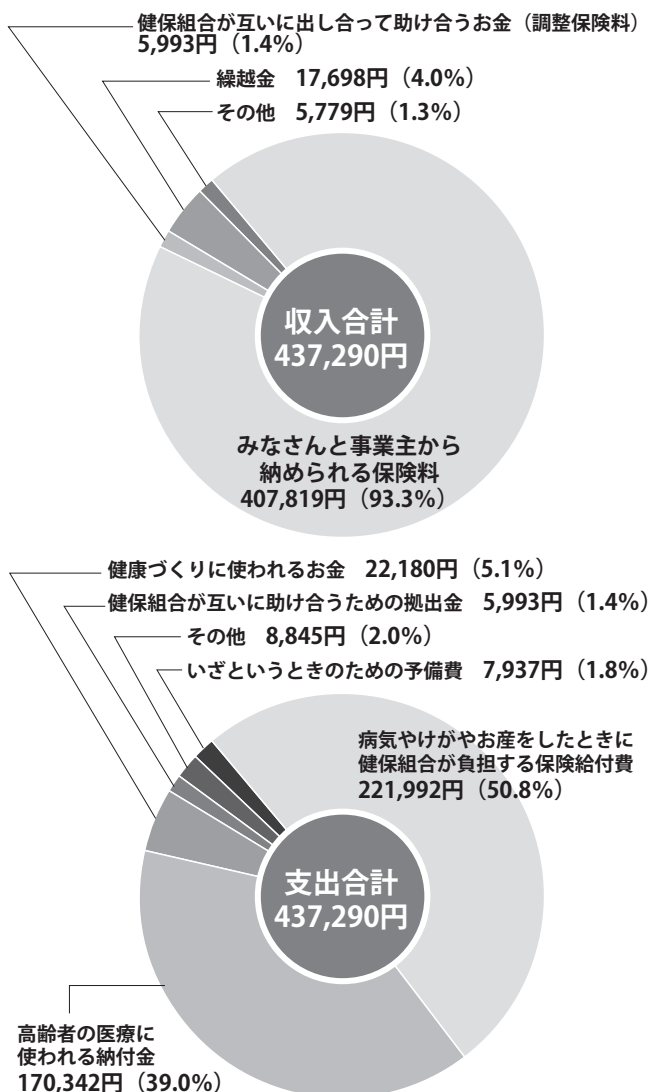


小林常務理事

常務理事の異動

このほど、水野昌宏常務理事が退任され、新しく小林啓治氏が3月30日開催の組合会・理事会において常務理事に選任され、就任しましたので、よろしくお願いいたします。

被保険者1人当たりでみた収支予算 (健康保険)



※ 四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります

当健保組合では、40歳以上の方（介護保険第2号被保険者）に納めていただく介護保険料を介護納付金として国に納めています。

23年度の介護納付金は2億3089万円で、前年度より1652万円増加しています。近年、介護納付金は急速に進む高齢化社会を反映して、増加傾向が続いています。これまでは介護保険料率を千分の12としてきましたが、増え続ける介護納付金に対応するため、23年度は千分の13・2に引き上げることとなりました。これにより、介護保険料は前年度比1940万円増の2億2762万円となっています。

介護保険料率を
千分の13・2へ引き上げ